

Shou 尚

発行者: 寶積克彦, 埼玉県狭山市水野594番地, 企画編集: 広報紙編集室, 編集長: 関口 歩
ホームページアドレス: www.syojukai.or.jp メールアドレス: syojukai@mirror.ocn.ne.jp

年頭あいさつ 副理事長 寶積英彦

平成26年、明けましておめでとうございます。

今年尚寿会は、皆様のおかげで開業満35年を迎えます。これも、法人を心から支えて下さる職員の皆様、利用して下さる皆様・ご家族様、そして地域の皆様のご協力のおかげです。本当にありがとうございます。心より感謝致します。

何事かの始まりは、必ず何事かの終わりです。最も大切な事は、何を始め何を終わらせるかを、決めることです。

昨年、行う努力はしたものの、成し得なかった事も現実的には多く存在します。それでも我が尚寿会では、下記の事を行う事ができました。



① 法人全体として、管理者スキルの強化・医療機関たる接遇の徹底強化

業務連携室はもとより、行政機関からも支援を頂き、各部門管理者に高いレベルの教育を行いました。どの患者様・利用者様・ご家族に対しても、笑顔で気持ちよく当法人をご利用頂くために、職員一同が多くの人に優しくなるように、研修・研鑽を積み最善の努力をしました。そして、今後もそれらを必ず継続して参ります。

② 大生病院における中央材料管理システムの導入

高齢化社会において、重症患者様の受入においては、多くの高度医療機器・材料が必要となります。それらが常に衛生的で適切な環境下で使用できるように、専従の臨床工学技師のもとで、集中的な管理を行える体制を整えました。それは、本年に開始される慢性維持透析患者様の受け入れ体制の基礎づくりの一環でもあります。

③ 大生病院における PHILIPS 3T (フィリップス3テスラ) 最新 MRI の導入

現時点でも世界一高性能な MRI 画像診断装置です。脳神経疾患はもちろん、胸腹部・整形外科領域・耳鼻咽喉科領域などの広い領域において、より鮮明な画像と確実な診断が可能となっています。法人内での利用はもちろん、地域の多くの医療機関の皆様にもご利用頂いています。正確な診断は、適切な医療提供への第一歩です。

④ 大生病院における血液生化学検査部門への迅速検査システム導入

外来受診時における一般的な血液検査が、受診当日(20~30分程度)で患者様にお伝えできます。今後も早期臨床診断の手助けになれば幸いです。

⑤ 大生水野クリニックにおける外来機能の拡充

地域密着型医療機関として、耳鼻咽喉科を筆頭に、整形外科・歯科診療・在宅訪問診療を行っています。看板である耳鼻咽喉科を受診される患者さんは急増し、整形外科は多くの先生方のご協力にて、月~土曜日までの充実した診療が可能になりました。歯科診療は、口腔外科部門の強化にて外来手術が可能となりました。尚、在宅診療部門は、約100名の患者様を拝見させて頂くまでに成長しました。

⑥ あさひ病院における認知症診療の拡充・入院治療強化

認知症専門医である病院院長自らが、専従で外来業務を行う事が可能となったため、より多くの患者様に質の高い認知症医療を提供できる環境が整備されました。

⑦ 大生病院におけるLTAC機能への挑戦

慢性期医療を行う上での、地域密着型機能です。LTAC (Long Term Acute Care : 長期急性期機能) の概念です。私たちの使命として、超急性期医療終了後の患者様で、在宅復帰までに時間を要し、継続医療が必要とされる方の入院受け入れは必須です。それに加えて、地域在住の方々における慢性期疾患の急性増悪時や、在宅患者さんの病状変化時に緊急入院を受け入れる機能が向上致しました。2次医療圏内で高度急性期医療を行う医療機関・地域密着型医療を行う多くの医院の先生方の、縁の下の力持ちであり続けたいと思っています。

近年、目まぐるしく変わり行く社会情勢の中で、医療社会にも大きな変化が求められています。地域包括ケアの在り方として、医療機関を中心とした市町村づくりが必要となってきています。病床機能報告制度が義務付けられ、地域に必要な病床・病院は淘汰されて行くでしょう。在宅医療が国の方向性で推進され、多くの資源が投入されています。従って、慢性期医療を、病院という施設を利用して継続するのであれば、よりレベルの高い充実した医療・看護・介護環境が求められるのは当然でしょう。無論、急性期医療は更に高いレベルと人員配置のボーダークリアが求められ、高度急性期へのレベルアップが求められるでしょう。

現状では、行政による地域統括管理が必ずしもうまくいっているわけではありません。ほとんどが地域の民間医療法人・福祉法人・優良一般企業に委ねられています。要するに、地域医療ケアを標語とした改革は、地域医療の現場で、地域に密着した医療を提供している私たちが、中心になって行わなければならない事なのです。

これからも私たち医療法人尚寿会は、常に「誰のために」・「何のために」を熟慮し、地域の方々を常に注視し続けます。そして成長していきます。次号の広報紙“尚”に、平成26年度の希望あられる具体的な事業計画を掲げますが、今後も多くの課題を抱え、それ以上に多くの理想を持って邁進していくことを、当法人は、地域の皆様にお約束致します。法人全職員にもぜひ同じ方向を向いて頂き、地域医療を支えている自負と責任、誇りを持って、新たな気持ちでさらなるご協力をお願い致します。

年頭にあたり、法人職員、地域の皆様の健康と更なる飛躍をお祈り申し上げます。

医療法人尚寿会 副理事長 寶積 英彦

いよいよです！～病院機能評価 更新審査～

大生病院4度目の病院機能評価更新審査日がいよいよ迫ってきました。審査日は今月29日と30日です。

今回の更新に向けて、昨年春に病院機能評価対策委員会を立ち上げ、ほぼ毎週代表者が集まって準備を進めてきました。

第三者評価を受けることは、医療機関として一定の水準を満たしているという証明にもなり、地域の皆様が安心して当院を受診して頂くために、必要なことだと考えています。

今回は特に、患者様の視点に立っての改善を意識して準備に取り組んできました。

例えば病院機能評価の審査基準として求められていることだとしても、それが本当に患者様にとって良いことなのか？当院の地域性や患者様の層に合っているのか？という事を、よく議論して準備を進めています。

職員の皆さん、この機会に法人理念・基本理念を確認し、職場に立つ心構えや日々の患者様に接する態度を改めて見つめ直しましょう。(熊☆)



狭山市最高齢のお祝い ～明治40年生まれの106歳 愛 奥富てる子様～

狭山市最高齢者である老健 愛に入所中の奥富てる子様。この度、仲川幸成狭山市長のお祝い訪問がありました。昨秋、作業活動等が狭山ケーブルテレビの取材・出演や、読売新聞に掲載されるなど、奥富様は“一躍時の人”になっています。狭山市長訪問の際には、一生懸命にご自分の書道の作品を説明される姿が印象的でした。

ちなみに県内の最高齢は、所沢市在住の111歳。県内での100歳以上の高齢者は、1700人を超え、狭山市でも44名いらっしゃるそうです。

尚寿会では、これからも100歳を超えても元気に、住み慣れた地域でその方らしく生きるという尊厳を守っていけるよう、努めて参りたいと想っています。(なみ)



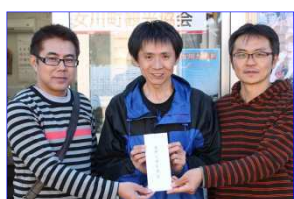
この気持ちを忘れない!～『ツール・ド・東北2013 in宮城・三陸』取材旅行報告～

昨年11月3日に、東北宮城・三陸エリア（宮城県石巻市・牡鹿郡女川町・本吉郡南三陸町）を舞台に、復興支援サイクリングイベント『ツール・ド・東北2013 in 宮城・三陸』が開催され、老人保健施設愛の野邊詠二リハビリ科係長と大生水野クリニックの白石淳医事課係長の2名が参加しました。実は他にも数名参加申し込みをしましたが、あえなく抽選漏れで、皆の期待を背負っての出場となりました。



一方、当法人では、東日本大震災の復興支援を積極的に取組んできた経緯があります。震災直後に被災地入りする職員には、当時品薄で入手困難であった乾電池を院内備蓄庫でかき集め300個を提供、毎年フリーマーケットや法人忘年会では、被災企業からの商品を大量購入、そして物販の代行、被災医療機関からの入院患者様の転院受入、各受付に義援金箱を設置するなど、医療機関・一企業としてできる範囲で支援を続けています。

震災から2年8ヶ月、人々の生活はどこまで復興しているのか？遠地にいる私たちは、時間とともに記憶が風化しているのではないのか？続けてきた支援も震災直後と現在で、求められているものとのギャップがありはしないか？—昨年福島第一原発からさほど離れていない南相馬市で、津波により被災した家屋からの泥出しボランティアに参加して以来現地に足を運んでいないことで、現状を把握できていないのではないのか？色々な疑問が湧いてきます。



そこで、ツール・ド・東北に出場する2名に同行し、現地を視察して、今後の支援の在り方に活かしてみようと思い立ちました。出発前に開催した、尚寿会フリーマーケットでは、女川町商工会の青山様と観光協会の遠藤様のご協力により、当地の観光物産を販売、その売上金と義援金箱に頂いたたくさんの方々の善意も女川町復興連絡協議会に託すことも決定しました。

ツール・ド・東北のコース沿道には、旗や横断幕を持った多くの人々が応援に出て、地域住民と復興を支える県内外からの出場者とが一体となり、東北の復興を願っている人々の熱い気持ちが実感できました。休憩ポイントでは、地元の方々による地の食材を使ってのおもてなし料理が振る舞われ、出場選手もその美味しさに疲れを癒し、たくさんの方々との暖かい交流が笑顔と元気をくれました。

コース途中の津波による甚大な被害を受けた沿岸地域では、既に新しい街づくりプロジェクトが始動し、その工事現場ではいつくもの大型重機があちらこちらで動いているのを目の当たりにして、復興への力強さに嬉しさがこみあげてきました。しかしながら、石巻市や女川町、以前のボランティアで訪れた南相馬市を思い起こすと、復興に向かう勢いには大きな地域差があるのではとも感じました。力強さを感じる女川町でも、仮設の商店街には以前テレビでみたような賑わいは無く、一概に支援と言っても、本当に必要な所に支援できているのかという疑問もわきました。



今回、宮城・三陸エリアにお邪魔して、被災地域の生活基盤を回復できるのは、地元経済の復調が必要と強く思いました。地元消費だけではなく、大量の消費が見込める首都圏大都市での物産展の盛況を見るにつけ、尚寿会フリーマーケットでの物販代行は、正解であったと信じています。

新たに現地で感じた疑問や想いをしっかり見つけ、まだまだ意義のある支援が行える！これからも皆様のお力をお借りしながら、この支援を継続させていきたい！！そう強く心に残った取材旅行でした。（なる・熊）

新に現地で感じた疑問や想いをしっかり見つけ、まだまだ意義のある支援が行える！これからも皆様のお力をお借りしながら、この支援を継続させていきたい！！そう強く心に残った取材旅行でした。（なる・熊）

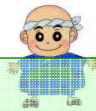
ますます盛況です!～『尚寿の市』会場変更しました!～

毎月第3月曜日（祝日の場合は翌週）は、直売『尚寿の市』。おとしの春から始めた“市”ですが、もうすっかり地元でも馴染みのイベントに育てて頂きました。そこで、昨年12月から大生病院～あさひ病院間の駐車場に開催場所を変更。広さはもちろん、道路際で分かりやすく、お昼休みの職員にも利用しやすい場所になりました。出店希望者も随時募集中！（出店料無料です。）皆さんもぜひ足を運んでみてください。（クロ）



次回開催日：平成26年1月20日（月）午前11時30分～午後1時30分

お問合せ：尚寿会 地域交流推進委員会 北田・上條（あさひ病院内 電話2957-1010）



蟹気楼 ～年頭所感・恥ずかしながら半世紀弱～

来年いよいよ50歳を迎える運びとなりました。年長の方々のはつらつとした姿を尻目に、日々衰えを実感しています。視力低下（近視用の眼鏡で焦点があわなくなってきた）、聴力低下（「えっ？」と聞き返す事が頻繁）、記憶力低下（あさひ病院の住所；狭山市水野の後の番地3桁が覚えられない）などを認めます。

新しいものに取り組む意欲も減退しているようです。当然のように、スマートフォン・ユーザーではなく、フリック入力？スワイプ～スカイプ～スペック？ドロップボックスってサクマ式？（なわけない（タモリで））。

ただ50歳代は、「うつ」の発症ピークのひとつであります。一般論ではありますが、メンタルヘルスを損なう人の心性には以下の3点が関わっているとされています。「こだわり」「プライド」、そして「被害者意識」。そこで、先述の自虐的な文章を見返すと、自らのコンプレックスから発せられた「被害者意識」であり、「プライド」の裏返しでもあり、自意識への「こだわり」とも受け取れます。そこで自分なりの処方箋を考えました。

信長曰く「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり」。子曰く「五十にして天命を知る」。自分に課せられた役割や、乗り越えるべき課題が必ずあるはず。能動的に探しましょう。他人任せにしないことが大切。でも、追い込み過ぎは禁物。適度に助けも求めましょう。依存と自立は表裏一体。開き直りも時には必要。1/3は努力、1/3は怠ける、1/3は運、と割り切りましょう。

まあ、とにかく明けましておめでとう（ラッシャー木村で）。2014年が皆様にとって素晴らしい一年となりますように（^-^）
田中裕志（あさひ病院精神科医師 2階東病棟・木曜午後外来担当）



盛大に行われました！～2013年尚寿会忘年会～

昨年12月13日、川越プリンスホテルにて、尚寿会忘年会が行われました。連携病院である埼玉石心会病院の先生方を始め、来賓の方々を含め、総勢560名が1年の活動を労い、心弾む音楽ショーや、サプライズじゃんけん大会などの楽しい企画で大いに盛り上がりました！（当日に夜勤等業務で参加できなかった職員にも、お寿司とサプライズが！）

これほどの大人数を目の当たりにし、尚寿会はたいへん多くの人たちの協力・連携で成り立っていることを改めて感じました。同時に、これだけの仲間がいるということに心強く想い、「また新年もがんばろう！」という気持ちがふつふつと湧いてくるようでした。

参加の皆様、留守部隊で勤務に当たられた皆様、そして企画運営の実行委員の皆様、お疲れ様でした！今年も盛大に忘年会ができるよう、皆さんで頑張りましょう！（ちか）



インフルエンザ流行の兆し？～ワクチン接種の実施が効果的です！～

昨年末から、インフルエンザの「流行入り」を宣言する自治体が相次ぎ、例年の流行期、1月から3月を前に、患者数の増加が懸念されます。このウイルスには、強力な感染力があり、いったん流行すると、年齢や性別を問わず多くの人に短期間で感染が広がります。

インフルエンザ予防に効果が期待できるのが、ワクチンの接種です。効果が現れるのはおよそ2週間後からで、その後約5ヵ月間持続するとされています。

65歳未満の健常者では70%～90%の発病予防効果があり、合併症の併発や高齢者の死亡を減らす効果があることが知られています。

ワクチン接種は、行政も推奨していて、60～64歳で心臓や呼吸器系、腎臓などに基礎疾患を持つ人をワクチン定期接種の対象と、法令で定めています。市町村による費用補助の対象となっている場合もあるので、該当される方は一度お問合せされてはいかがでしょうか。（茶木）



☆初東雲号☆はつしのめ号 初東雲とは、元日の明けゆく空の事です。元日の空は、「初茜」「初東雲」「初明り」「初日」の順に時が移り、新年を迎えます。刻々と移りゆく空時々呼び名があり、新年を迎える高揚感が伝わるようですね。今年も良い年でありますように…。(歩)

